1　チーム名　中学部　作業学習	
2　メンバー	中学部教員８名

3　テーマ

生徒に合った活動内容や手だてを工夫し、
自分から取り組むことができる中学部の作業学習
～中学部の作業学習で大切にしたいこと～

4　対象生徒に願う主体的な姿

工芸班：〇紙すきの他にステンシルやプレスがけの活動にも取り組み、できる活動を増やすことができる。
状況に応じて、挨拶や報告、相談をすることができる。

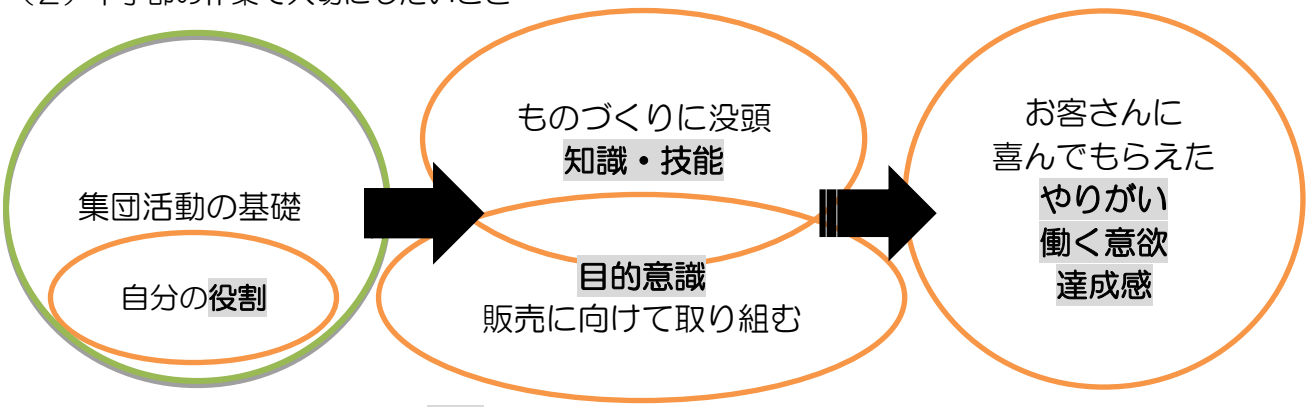
家庭班：〇「マット編み」の編み間違いに自分で気づくことができる。自分から教師に報告できる。

5　研究実践の内容

（１）テーマ設定の理由

現在、工芸班、家庭班の二つの班で形成されており、班の人数がそれぞれ 15 名程度である。大きな集団であるので、班ごとに役割分担を決め、さらに工程ごと、活動内容ごとにグルーピングし学習している。通常学級と重複学級が合同で学習しており、班ごとの実態差が大きい中で、その生徒にあった学習に取り組んでいる。作業学習の中で、高等部につなげ、さらに将来につなげていくためには、改めて中学部としての作業学習ではどんなことを大切にしていきたいのかを考え、このようなテーマを設定した。また工芸班、家庭班の授業を見直し、ねらいの設定や評価のあり方についても考えていきたい。

（２）中学部の作業で大切にしたいこと



〇集団の中での役割をもつこと（役割の意味）
→完成するための一つの工程に自分の仕事があって一つの製品になる。（達成感を感じる）

〇販売に向けては、作業の始まりの会で昨年のパワー祭りの様子を写真で提示し、作ったものが製品となり、販売することということを伝えてきた。パワー祭り後は、売った様子を写真で提示し、たくさんのお客さんが来たことを伝えた。→特にパワー祭り後は、目的意識へとつながった。

〇ものづくりに没頭すること（知識・技能）→やりがい

〇作る（ていねい、きれい）、目的→売る（お客さんの反応、喜んでもらえた）→働く意欲につながる。

（３）授業の改善

〇　工芸班【改善前：７月】

（生徒Ａ）紙すきの活動に取り組む。

ね ら い：本人の「自分から」を具体的にすること。意欲・態度面を高めていくこと
本人の目的意識を持たせること

教材教具：報告するタイミングを明確にする→ヒントカードを用意。報告し、自信へつなげる。

支　　援：紙すきの手順はわかっており、支援がほぼなくてもよい。
失敗した時も報告できるようになるといい。

活 動 量：もてあます時間があるので、紙漉きを一人一ケース行う。活動量を増やすこと。

改善点：紙漉き→プレスがけなど活動量を増やした。教師は本人から離れ、支援はなくし、一人で行う状況にした。報告後は、上手にできていた場合、簡単な称賛をするようにした。

【改善後：１１月】

ね ら い：達成できている。報告やお願いをした後の返答のしかたがいい。

教材教具：本人がやりやすい高さである。

支　　援：教師が本人よりも離れていて大きな声で報告できるようになった。教師の簡単な称賛。

活 動 量：もてあまず時間がない。これからももっと取り組めるであろう。今後ノルマを与えること。

気づき：紙漉きグループの活動で、通常学級の生徒と重複学級の生徒がおり、能力差がある。支援をなくし、活動量を増やし、能力的に高い生徒をさらに伸ばすことをしていくことをしていかなければならない。

○　家庭班【改善前：７月】

（生徒Ｂ）マット編みの活動に取り組む。

分かる活動：現在補助具を使っているが、マット編みの中で、上下の意識をさせていく。

教材 教具：補助具は、上下が分かり、効果的である。
教師の様子を見て、すぐに報告できないところがあるので、「できました」のカードを使用することやベルを使って音を出し、報告すること。

支　　援：ミスがあるので、細かい支援が必要。目配りやタイミングを作ることも必要。

改善点：報告の仕方をベルで実施したが、教師の様子を見てからベルを鳴らすので以前と同じ状況であった。そのため、教師のいる場所へマット編みの台をもってきて報告をするようにした。

【改善後：１１月】

ね ら い：報告に間はあるが、報告するまでの時間は縮まっている。

分かる活動：繰り返しの活動で少しずつ自信へはつながってきている。

教 材 教 具: 隣の生徒を気にしていたので、机の配置を配慮していく。

支　　援：本人の目で伝える様子から教師が支援をしている。

活 動 量：活動量、少しずつ増えているが、早く取り組める状況などさらに必要。タイマーなど。

気づき：報告のしかた、手だてなど改善しながら取り組み、繰り返しの活動により、少しずつの変化が見られた。今後も本人の様子を見ながら、本人のできる状況を考え、少しずつステップアップしていければと思う。

6　成果と課題

今回の研修を通して、中学部の作業学習を改めて考えるきっかけとなり、中学部としては「目的意識」「やりがい」「働く意欲」を高めていきたいと考えることができた。そのためには、販売会で売って喜んでもらえたという体験や始まりの会で目標を明確に伝えることをしていけばさらに高めていけるのではないかと考える。また、能力差がある作業学習の中で、能力的に高い生徒を伸ばす努力をしていかなければならないと感じた。そのためには、支援を減らすこと、活動量を増やすこと、あえて課題を与えること、ノルマを達成するために目標をもつことをしていくことが大切であると思われる。また少しずつステップアップしていく生徒には、教材、支援方法を試しながらも、できる状況を見極めていくことが大切であると感じた。今後も教師は、一人一人に合った目指す生徒像を考え、生徒に合った活動内容や手だてを工夫していきたい。